



編集・発行 邑楽町役場企画課
〒370-0692 (住所記入不要)
☎ 0276-88-5511 (代発)
☎ 0276-47-5007 (企画課直通)
☎ 0276-89-0136
URL <http://www.town.ora.gunma.jp>
E-mail koho@town.ora.gunma.jp

邑楽町携帯サイト
2次元コード対応の携帯電話は、右のコードをご利用ください。読み取りができない場合はURLをご入力ください。
携帯用URL <http://www.town.ora.gunma.jp/k>



若い人たちに語り継ぎたい、
次の世代に残しておきたい。
貴重な話をお届けしますー。

あすへひとこと

「邑楽町の昔ばなし」より

邑楽町の地名あれこれ⑦



公立の学校がなかった時代、教育は善意や奉仕で行われていました。
子どもたちは師匠のもとで実践的な読み書きを習いました

松原墓地の筆子塚

篠塚中坪谷の南に松原墓地というお墓があります。この墓地の中に渡邊源兵衛の筆子塚があります。雨風にさらされて、読みにくくなっていますが、彫つてある文字は分かれます。高さ1.5mばかりで、明治14年10月17日に建てられたものです。

「松白碧寿信士 寿白春髓信女」
渡邊源兵衛とチカ夫妻の法名です。台座には正面に渡邊の2字、3面には筆子20人の氏名が刻まれています。

筆子というのは、手習い塾の子どものことで、今の書道塾に通う子どものことです。その筆子たちが師匠のために建てたお墓を筆子塚と呼びます。これは渡邊源兵衛という書道の先生のために弟子たちが建てたものです。源兵衛先生を弟子たちが、どんなに敬っていたのかが分かります。渡邊源兵衛は享和2年(1802)野州都賀郡赤麻村(栃木県下都賀郡藤岡町赤麻字北坪)藤沼市左衛門の三男として生まれ、渡邊家の養子となり、チカと結婚しました。書道に優れており地元の若者たちに教えておりました。

その家系は、子、源六から定吉・幾太郎・藤雄・全朗さんと続いています。全朗さんは筆子塚保存のため、平成5年10

月、筆子塚を建てました。

これからも、この碑を見る人たちによって昔の篠塚周辺の子どもの手習いの様子や、源兵衛師匠の話は未長く語り伝えられることでしょう。

横根(よこね)

昔、篠塚村のあるお大尽の地主の娘さんが、ひと村越えた舞木村(千代田町)へお嫁に行きました。そのとき大尽では嫁さんに土地を分けてやりました。その場所は、赤堀村の十軒と、篠塚村の八丁の間にある山林でした。

ところが、明治になって村境を定めるとき、この土地は舞木村某の所有地というので、舞木村分になったそうです。土地の人たちは、この飛び地を通称「横根」と呼んでいます。その土地は現在、開発され工業団地になっています。この土地の所在地はもともと、篠塚村分と赤堀村分でしたが、遠くの舞木村という木が、横の方に根を伸ばし、生え出してきた舞木村分となっているところから人々は、この飛び地を横根と呼びました。ここは現在も千代田町大字舞木の飛び地として残っています。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会
平成10年12月31日発行「高齢者の語り(第六集)あすへひとこと」より



瑞穂の国
(中野地内)



Photo 原田隆雄

ひとりごと From editors

▶平成26年7月1日より広報広聴係に配属され、広報編集などを担当することになりました。カメラも触ったことないし、編集ソフトも使ったことない、なんだか転職でもしたようなそんな気分。だけど、時間は待つてはくれません。今は、時間を無駄にしないよう毎日努力するのみです。優しい先輩とともにこれから広報おうらを作っていきたいと思います。よろしくお願いします。

▶さて、皆さん笑顔で過ごしていますか？私は常に「笑顔」を心掛けています。そのおかげで、目じりのシワが…。そんなことは気にせず、これから笑顔で取材していきます。笑顔の広報担当者、それが僕。皆さんも取材は最高の笑顔でお願いします！(本澤)



この広報誌は、自然保護のため
植物油インキを使用しています。



この広報誌は、東日本大震災で被災した三菱
製紙のニューVマツト紙を使用しています。